



「すきま時間を活用する」 ～ 「テストの花道」の一方法から～

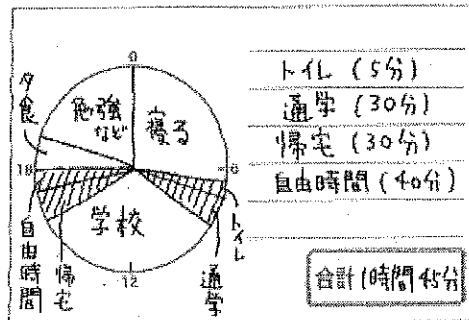
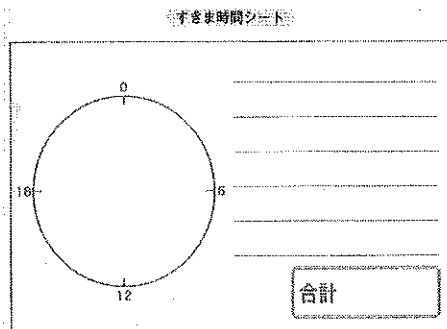
6月6日の講演会で講演された黒上 晴夫先生くろかみの監修「テストの花道」によると、シンキングツールを用いた思考力の増進、生活環境の整え方など、学習力の向上に資するものが多くあります。工夫次第で、自分自身の生き方・在り方を問い直し、見いだすことができるといえますね。

さて、「テストの花道」シリーズ本では、「今日から変わる！やる気のスイッチを入れる花道」と題する項目があり、この中で、「すき間時間」を有効に使う事例が挙げられています。

下図を参照してください。1日24時間には、案外「すき間時間」(ムダに過ごしていた時間)があるはず！みなさんの「すき間時間」の合計はいくらありますか。それを今後、どのように使うことができるでしょうか。下の囲み内は、本の中で紹介されている先輩(大学進学を成し遂げた人)の、「すきま時間」に関する考察です。

- ・1日=24時間から固定時間を引くと16時間くらいある。そこから、6時間好きなことをしても、まだ10時間くらい残る。そう考えると、ムダな時間は結構ある。
- ・「すきま時間」を利用すれば、そのつど違う場所で覚えられる。ずっと机の前に座ってやるより覚えやすい気がする。1時間くらい見ていた単語は意外と忘れてしまうのに、「5分しかない」と思うと集中力が上がるみたいで、その5分間で集中して覚えた単語は忘れなかった。

【「すきま時間」の把握と活用】

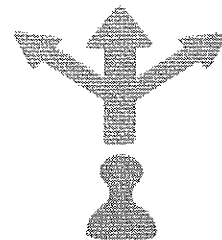


小論文ワンポイントアドバイス : 「3つ目のベクトルを持つ」ということ

小論文では、「3つ目のベクトル」を持つことが大切です。1つ目と2つ目は、異なる論の中でも、極端な幅のある立場。例えば、平和に対する認識のレベルでも、いわゆるハト派とタカ派とがありますね。

ここで、自分自身はどのような立場をとるのか。これが「3つ目のベクトル」といえます。憲法論議でもそうです。改憲の立場の割合が増える中、自分自身はどのような立場を譲らないのか考えるべきです。

また、原子力発電の問題も同様ですね。現実的な対応のみならず、根本的な対応の在り方が問われる時、何を譲れないのでしょうか。



今後の計画：受験に向かう観点 : 模擬試験と大学受験(センター試験)など

- ★「**模擬試験**」 6/9・10(マーク)/7/7・8(記述)ともに進研模試。総合的な学力判定ができます。今努力していることの成果があわられるのは、約3か月後！努力を惜しまず、継続すべき。
- ★「**大学受験(センター試験を例に)**」 センター試験は 1/19(土)・20(日)実施。残り200日しかありません。ただ、みなさんの潜在的力を考えると、試験直前まで伸びていくことを忘れずに！
- ★「**就職・公務員試験**」 別途指示。志望理由を整え、自己PRができるよう準備しておこう！